

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	51	実施計画番号	119
事務事業名	アーツ・トワダの推進 ミュージアム・イベントの実施		
個別事業名		事業開始年度	平成20年度
担当課名	観光推進課	事務の種類	自治事務
根拠法令等	十和田市現代美術館条例	関連事務事業	
背景や経緯等	市民の美術への関心を高めるため、美術館へ足を運びやすい状況をつくる必要性、また空間を活かした多様な活動を外部に対して見せる実験性が背景となっている。		
事務事業の目的	市民に開かれた美術館として、より親しまれ活用される契機とすることを目的とする。		
実施状況	美術館施設を活用し、市民が現代アートに親しみ、交流できるコンサートやアートパフォーマンス、ワークショップ等を実施する。		

## 【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	0
	活動日数(日)	87	100	0
	人件費(千円)	3,132	3,600	0
正職員以外	従事者数(人)		1	
	活動日数(日)		100	
非常勤職員	人件費(千円)	0	740	0

## 【事業費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)		1,674	1,116	0
うち一般財源		1,674	1,116	0
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

## 【指標】

活動指標	活動指標名①	イベント等の実施回数の合計				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		回	10	23	12	
	活動指標名②					
成果指標	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		人	目標値	500	1,000	1,000
			実績値	844	4,143	
			達成度(%)	169%	414%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
			目標値			
			実績値			
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	51
計画No	119

## 【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 施設の管理主体である市が、施設活用の新たな可能性や美術館の多様な面を発信することは、妥当である。		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2				
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 施設の可能性を広げかつアートに親しむ機会を実現し、目標を大幅に上回る参加者となった。 イベントを契機に初めて美術館を訪れる市民も多く、またリピーターも増加し、事業目標を達成している。		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2				
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	4	コスト削減の余地 2 / 6 市民等から持ち込まれる企画が増え、開催数が大幅に増加したが、その分美術館にふさわしい内容かどうかの判断、緊密な打合せが必要となり、正職員の役割が増した。 連携企画が増えた分の事業量の割に事業費は抑えることができた。		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	C	0				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	3	受益者負担適正化の余地 1 / 4 有料イベントや観覧料の負担が必要なイベントを増やしたが、まだ参加無料のイベントも多い。適切な受益者負担についてはさらなる検討が必要。		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
					現在の適性	17 / 20	改善の余地	3 / 20

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

⇒

現状のまま継続

### 方向性の理由

現代美術館の新たな可能性を視野に入れながら、地域活性化のために一層の活用を図るべきと考える。

### 今後の具体的な取組み方策と狙う効果

最低限の事業費は確保しつつ、企画内容の充実、イベント実施団体(個人)への助言や支援を継続していく。平成24年度から指定管理へ移行したが、これまでのノウハウや経験を伝えながら、民間活力を大いに導入し、効率的な運営をすすめていく。